

12.2 反プルサーマル行動の日 要請・質問書

福島原発事故から学ぶことは玄海原発廃炉しかない。
玄海3・4号機の運転延長を認めてはならない。
停止と廃炉を求める

2022年12月22日

佐賀県知事 山口義祥 様

あしたの命を考える会／今を生きる会／風ふくおかの会／玄海原発反対からつ事務所
原発知っちよる会／原発を考える鳥栖の会／さよなら玄海原発の会・久留米
戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会／脱原発電力労働者九州連絡会議／たんぼぼとりで
怒髪天を衝く会／東区から玄海原発の廃炉を考える会／福岡で福島を考える会
プルサーマルと佐賀県の100年を考える会／玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会

2009年12月2日は、日本で最初のプルサーマル運転が玄海原発3号機で始まった日です。私たち住民はプルサーマルと原発稼働を強行に進められたことに理解も納得もしていないことを、2010年から毎年“12・2 反プルサーマルの日”として行動で示してきました。今年で13回目となります。

玄海3号機のプルサーマルの危険性は、ウランを燃やす目的で造られた118万kW級の軽水炉でいきなりMOX燃料を燃やしたことです。また、核分裂性プルトニウムの含有率・富化度・燃焼度の条件では世界初であり、実証炉で安全性を検証することも全く無く商業運転を始めたことは実験というべきで、以来、住民は正にモルモットにされ続けています。

プルサーマルは通常のウラン燃料と比べて、制御棒の利きが悪くなり、燃料破損の可能性が高くなるなどの指摘に対し、九州電力からの回答は「ほとんど従来のウラン燃料と変わりが無い」など安全性重視とは思われず、加えて専門家は、重大事故の発生確率は高まり、事故時の被害はさらに拡大する可能性があるとして厳しく指摘しています。政府は「東京電力福島第一原発事故の犠牲」と「核燃料サイクルの破綻」を全く認めず、従来からの原子力政策に固執するのみで、国民の安全安心を守るつもりがある様には見えません。

2020年11月18日、玄海3号機では使用済みMOX燃料16体が発生しました。現時点で利用も廃棄もできない使用済みMOX燃料の管理という難問に対して、九州電力や政府は「未来の研究開発に取り組む」と先送りの無責任極まりない回答を繰り返しています。

今年8月24日岸田首相は、「①稼働中の10基に加え、7基を再稼働、②原発稼

働原則 40 年、例外的に一回のみ稼働期間の 20 年の延長可能とした原子炉等規制法の 43 条を削除、「③次世代革新炉の新增設」を表明しました。

福島原発の事故処理はいまだに終わらず、被災者・被害者の苦しみは続いています。福島原発事故以来、政府が避けていた「新增設」に踏み込む岸田首相の発言は、原発の安全性への不安を抱いている国民を無視するもので、暴挙というしかありません。

福島原発事故では、多くの住民が突然くらしを奪われ、田畑を放射能に汚され、避難生活を余儀なくされました。私たちは福島原発事故を決して忘れてはならないのです。被害を負う住民として、子どもたちを守る大人として、以下の要請と質問をいたします。文書回答ならびに対話の場を求めます。

【要請事項】

1. 貴職は住民のくらしを守る立場だからこそ、プルサーマル炉の玄海原発 3 号機、ならびに 4 号機の同意を取り消し、直ちに停止するように、国と九州電力に求めること。
2. 原発運転期間の原則 40 年、最長 60 年制限の削除が決められようとしている。安全性が確保されない老朽原発程危険なものはない。佐賀県知事として県民の安全を第一に考え、運転延長の設置変更届には承認を与えないこと。

【質問事項】

1. 使用済み核燃料の乾式貯蔵施設の設置について佐賀県は事前了解しています（2022/3/24）。その後の行き先の六ヶ所村再処理工場の建設は今年で 26 回目の完成延期をしています。何年間玄海町に留め置かれるか九州電力に確認しましたか？確認されていれば、その応答をお答えください。
2. 原発運転期間の原則 40 年、最長 60 年の制限の削除が今年中に決められようとしています。40 年の運転を見越して用意されている脆性遷移温度を測る試験片は長期の運転に足りる数が完全な形で格納されているのか九州電力に確認しましたか？確認されていれば、その応答をお答えください。
3. 原発がひとたび事故を起こし放射能が拡散された時、UPZ 区域（玄海原子力発電

所から概ね 5~30km) の住民は基本的に屋内退避とされていますが、いつ終わるか分からない事故の経過をどのように伝える体制が取られ、誰が何時どの地域をどのように見回りするのか、食料、水等、日常必要物資の供給はどのように行うか、段階的にどのようなシミュレーションをして、計画が立てられているのか、具体的にわかりやすく示すように回答してください。

4. 安定ヨウ素剤について、佐賀県では、PAZ は元より UPZ においても、健康上の理由等により、緊急時に速やかに配布を受けることが困難な方で、希望される方に対して事前配布をすとなっています。が、県発行の「原子力防災のてびき」によると、30 キロ圏外も状況によっては避難しなければならない事態も指摘されています。原発が佐賀県にある以上、県民の安全を考えて出来る事、全ての県民に事前配布する事は必要だと思いませんか？

5. 2021 年 11 月 30 日玄海 3 号機の 1 次冷却水中の放射性ヨウ素濃度が上昇し、193 体の燃料集合体の内の燃料棒 1 本からの漏えいが確認されました。ファイバースコープによる外観調査等を行ったが原因は究明されず、「偶発的に発生した微小孔」からの漏えいが原因であると九州電力は「推定」しました。

原因が究明されないという事態に対して住民の安全安心を守る佐賀県知事として九州電力にさらなる原因究明は要請しましたか？

したのであれば結果を教えてください？

6. 原発は事故がなくても膨大な量の放射性トリチウムを空に海に大地に垂れ流しています。特に玄海原発は全国原発の中で最大量を放出しています。ノーベル賞学者小柴昌俊氏が 2003 年に小泉純一郎総理に宛てた嘆願書の中で「トリチウムはわずか 1 ミリグラムで致死量となる猛毒」と述べています。

佐賀県知事として発生源の九州電力と規制責任者、国にトリチウムの毒性および健康と環境への安全性証明を求める必要性を感じていますか？

私たちは、特に 2011 年 3 月 11 日より 12 年経過した今、速やかに住民の疫学的健康調査を実施し公表すべきと思っていますが、県知事の見解をお答えください。

7. 玄海町長へに対して、「原子力防災避難計画では、佐賀県小城市が玄海町民の避難先に指定されています。玄海町から吹く風は統計上約 6 割強が北北西（国土交通省気象庁統計 1991-2020 の最多風向き）の風になっています。

住民の安全安心な避難を考えた時、小城市は妥当な避難先と考えますか？

当日の風向きで移動すべき第 2 の避難所の場所はどこに確保していますか？」と質問したところ、「小城市は、避難先として妥当と考えています。よって第 2 の避難所を確保していません。なお、広域避難が必要となる大規模な原子力災害含む複合災害時における避難施設については、県が、玄海町、関係周辺市、その他市町及びその他の防災関係機関等から収集した避難経路の状況や避難施設の安全又は原子力災害以外の災害に係わる指定避難所としての使用状況に基づき、玄海町及び関係周辺市に対し、代替となる避難経路や避難施設について示すものとされています。」

(回答ママ)と玄海町の回答は、県が指示するものとされています。代替避難先問題は、事故が起きてからでは間に合わない問題です。小城市方面へのプルームが確認された時や原子力複合災害時における玄海町や唐津市、伊万里市との連携やシミュレーションはどのように想定しているのか、具体的にお答えください。実際に起きた福島原発事故を踏まえて、受入先となっている地域住民に対しても、安心できる回答をお願いします。

8. 佐賀県原子力地域防災計画の基準でもある、原子力災害対策指針に OIL 基準があります。500 μ シーベルト毎時で一日以内に避難、20 μ シーベルト毎時で1週間以内に避難は、ガンマ線だけの測定の外部被ばくだけで、呼吸や飲食で体内に入ったアルファ線やベータ線などの内部被ばくの考慮がされていません。これらの基準ではがんや障がいが発生させる危険性から住民を守る事はできないと理解しています。知事はこの基準で住民の命と健康を守ることが出来ると考えていますか？もし守れるというなら、根拠を示して下さい。

以上

連絡先 : 玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会
090-6772-1137(石丸)・080-5254-6866(江口)